Mejiro Philharmonic Orchestra

6th Regular Concert 9. 29. 2024

PROGRAM

2024年9月29日（日）
江戸川区総合文化センター　大ホール
指揮　小林雄太

P.I. チャイコフスキー

バレエ音楽

『くるみ割り人形』Op.71

より抜粋

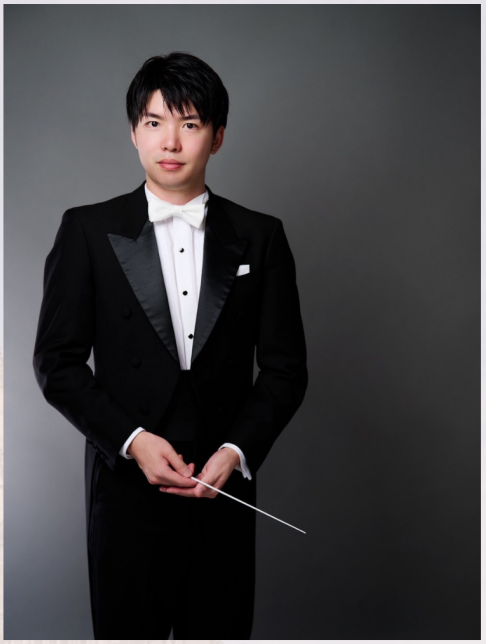
序曲
第1幕
1. クリスマスツリー
2. 行進曲
3. 子供たちのギャロップと親たちの登場
5. グロースファーターの踊り
9. 雪のワルツ
第2幕
12. ディベルティスマン
(a) チョコレート（スペインの踊り）
(c) お茶（中国の踊り）
(d) トレパック（ロシアの踊り）
(e) 葦笛の踊り
(f) ジゴーニュ小母さんと道化たちの踊り
13. 花のワルツ
14. パ・ド・ドゥ
(a) アダージョ
(c) 金平糖の精の踊り
15. 終幕のワルツとアポテオーズ

交響曲第4番 Op.36

指 揮 者

小林雄太

KOBAYASHI
YUTA



©Fukaya/auraY2

1997年新潟県長岡市生まれ。 第58回ブザンソン国際指揮者コンクール本選出場。給費奨学生として東京音楽大学指揮科に入学。これまでに指揮を広上淳一、田代俊文、増井信貴ら各氏に師事。鍵盤楽器奏者として別府アルゲリッチ音楽祭、東京音楽大学シンフォニーオーケストラ定期演奏会等に出演。東京音楽大学創立111周年記念演奏会「指揮クラブ フレンドシップコンサート」にて、東京音楽大学特別編成オーケストラを指揮。大学卒業と同時に公益財団法人日本製鉄文化財団 2021年度若手指揮者育成支援制度に合格。紀尾井ホール室内管弦楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団で研鑽を積み、広上淳一、高関健、下野竜也の各氏に指導を受ける。これまでに神奈川フィルハーモニー管弦楽団、横浜シンフォニエッタ、東京混声合唱団等を指揮。オペラの分野では、日本オペラ振興会等のプロダクションに音楽スタッフとして参加。2021年4月より2024年3月まで京都市ジュニアオーケストラ副指揮者。2022年10月、神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任。

代 表 挨 拶

本日は目白フィルハーモニー管弦楽団第6回定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

多くの方々にオーケストラをより身近な存在に感じていただきたいという考えの元、2018年の結成以来団員とともに活動を続けてきた当団は、本年で設立から7年目を迎えました。多くの方々のお力添えによるものであり、団員一同心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は年末らしい華やかさのあるドイツ・プログラムでしたが、今年はロシア音楽でありながらドイツ・イタリアの異国情緒を放つチャイコフスキー・プログラムとなっております。

前半はドイツのニュルンベルクが舞台のバレエ音楽『くるみ割り人形』です。組曲が有名なくるみ割り人形ですが、今回は比較的演奏される機会が少ないバレエ音楽から一部抜粋する形でお届けします。「クリスマスツリー」や「雪のワルツ」、「パ・ド・ドゥ」など上品な華やかさのある曲目が多く揃っております。一足早いクリスマス気分をご堪能ください。

そして後半は、チャイコフスキーが『水の都』ヴェネツィア滞在中に書き上げた、交響曲第4番をお届けいたします。1楽章と4楽章に登場するトランペットのファンファーレが非常に印象的な曲ですが、私たち弦楽器奏者としては全てピッツィカートで演奏する3楽章のスケルツォも見逃せません。

今回の2曲を演奏するにあたり、それぞれの舞台となったドイツ・ニュルンベルクとイタリア・ヴェネツィアを個人的に訪問してきました。ニュルンベルクには複数の寺院があり、正午になると鐘が鳴る、まさに映画の世界の中にいるような気分になれる街でした。土産店の中にはくるみ割り人形を取り扱う店舗もあり、１つ１つが手作りとなっているため、様々な表情が見られます。イタリアの

ヴェネツィアは迷路のように張り巡らされた路地が続いており、運河沿いはどこも絵になる風景でした。夜になるとよりその幻想さが増し、ライトで照らされたボートやゴンドラがよりロマンチックな風景となります。特に夜の街中はどこを歩いても賑わっており、かつての繁栄が見え隠れしていました。

前半は副題からくるみ割り人形の物語を思い描きながら、後半はヴェネツィアの華やかかつ幻想的な風景を思い浮かべながら、ぜひ最後までお楽しみいただけますと幸いです。

私たち目白フィルは、実現したいと思ったことはどのようなことでも努力次第で実現できると考えております。「音を奏でる演奏者とその旋律に耳を寄せるお客様の両者が共に楽しむことができる」という理想形のオーケストラの演奏会を追求すべく今後も活動を続けて参ります。

当団の活動が多くの方が希望を持ち、明るい未来を作る糧になることを願い、私からの挨拶とさせていただきます。

目白フィルハーモニー管弦楽団代表
髙野峻史

P.I.チャイコフスキーの生涯

P.I.チャイコフスキーの肖像

～誕生・幼少期～

本演奏会を飾るピョートル・イリイチ・チャイコフスキーは、1840年、ウラル山脈の西沿いに南へ流れるカマ川のほとりにあるヴォトキンスクという鉱山町に、鉱山技師のイリヤ・ペトローヴィチ・チャイコフスキーの次男として生まれた。父はチャイコフスキーが生まれる3年前に、この地方の監督官として着任しており、チャイコフスキーは8歳までこの地で育った。4歳の時、若い女性の家庭教師ファンニー・デュルバッハが住み込む。彼女はチャイコフスキーにとって母に代わる精神的拠り所となり、彼の幼年期を知る重要な人物である。

1848年(8歳)には父の仕事の関係でサンクトペテルブルグ、翌年にはウラル山脈を越えてアラパエフスクへ移り住む。

～法律学校時代～

1850年(10歳)、サンクトペテルブルグの法律学校へ入学し、単身学校の寄宿舎に入った。この年、ロシアの作曲家ミハイル・グリンカの『イヴァン・スーサン』の上演に感動し、友人への手紙の中で「やがて私は音楽家になるような気がする」と告げた。

1854年(14歳)、母をコレラで失い、激しいショックを受け、喪失を埋めるかのように作曲を始めるようになる。同年にはファンニーの後に来た家庭教師アナスターシャのためにピアノワルツ『アナスターシャ・ワルツ』が作曲されており、これは今日聴けるチャイコフスキーの作品の中では最も古い。1858年(18歳)には歌曲『私の守り神、私の天使、私の友』を作曲、次に来る彼の人生への胎動のすべてがこの時期に根差していた。

～法務省勤務～

1859年(19歳)、法律学校を卒業。9年間の学校生活で、彼は政治や社会を見る目を養い、幅広い交友関係をきずき、彼の人格形成に意義ある時期となった。しかし、義務として勤務した法務省の役人としての生

活は、当時のロシアの官僚の世界が汚職、買収などが横行していたことも相まって、仕事に打ち込めない無気力なものとなっていた。そのような彼にとって、古今の名曲を聴かせてくれるサンクトペテルブルクの大学のオーケストラや、友人の紹介で出入りするようになった上流社会のサロンでの音楽は、救いを与えていた。

～サンクトペテルブルク音楽院～

1860年(20歳)、音楽家として畏敬の的であったアントン・ルビンシティンがサンクトペテルブルクに音楽教室を創立。翌年にはチャイコフスキーもその教室に入り理論をザレンバに学ぶ。また翌年の1862年(22歳)には、この音楽教室を基盤としてサンクトペテルブルク音楽院が創立され、改めて入学。役人生活と並行しながら、本格的な音楽の勉強に取り組んだ。1863年(23歳)、法務省に辞表提出。

1865年には優良な成績で卒業した。

～モスクワ音楽院～

ルビンシティンの弟ニコライ・ルビンシティンは、モスクワに音楽教室を開設しており、モスクワ音楽院開設に向けて兄の音楽院の卒業予定者の中から彼の片腕となる人材を求めていたのだが、面接の結果チャイコフスキーに白羽の矢が立つ。

卒業と同時にモスクワへ飛び立ち、同音楽院の理論を担当する教師として就任した。翌年には交響曲第1番『冬の日の幻想(白日夢)』を完成させ、作曲家としても本格的に大きく足を踏み出した。

～作曲家として～

1868年、交響曲第1番がモスクワで初演され、これを機にロシア5人組と交友を結ぶ。同年にはロシア5人組の一人、バラキレフの指導のもと幻想的序曲『ロミオとジュリエット』を作曲し、彼に献呈した。時を同じくして、オペラ歌手のデジレ・アルトーと知り合い、ピアノ曲『ロマンス』を捧げて婚約まで行った。彼女はチャイコフスキーが生涯で唯一心を奪われ、結婚を切望した女性であったが、最終的には作曲家チャイコフスキーが台無しにならぬよう身を引き、彼の心を傷つけないために自分は取るに足らないバリトン歌手と結婚した。この出来事により激しいショックを受けたが、作曲活動は彼を早く立ち直らせた。

1875年頃から彼の代表作が相次いで生み出され、次第に作曲活動は充実していくのであった。

【参考文献】音楽之友社編『作曲家別名曲解説ライブラリー チャイコフスキー』1993、音楽之友社

モスクワ音楽院前のチャイコフスキー像

曲目解説

バレエ音楽『くるみ割り人形』Op.71

P.I.チャイコフスキー(1840－1893)

本作はチャイコフスキーが手掛けた最後のバレエ音楽で、同じく彼の作曲した『白鳥の湖』『眠れる森の美女』と共に3大バレエと呼ばれる。原作は1816年に書かれたE.T.A.ホフマンによる『くるみ割り人形とねずみの王様』の童話であるが、バレエ制作に際して使用されたのはフランスの文豪デュマ・フィスが翻案脚色したものである。1892年12月、サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場で初演された。

様々な版が出ており、演出によって物語の展開に相違があるが、あらすじは以下の通りである。クリスマス・イヴに叔父のドロッセルマイヤーからくるみ割り人形を贈られた少女クララだが、兄のフリッツに人形を壊されてしまう。夜になって人形を心配したクララが広間に来ると、くるみ割り人形率いるおもちゃの兵隊たちとねずみの大群が戦いを始める。クララの助けもあって勝利したくるみ割り人形は華麗な王子の姿となり、彼女をおとぎの国へと招待する。雪の精の踊る森を抜けお菓子の城にたどり着いた二人は、楽しいひと時を過ごす。朝が来て、夢であったことを知ったクララは、くるみ割り人形をより一層愛する、という物語である。

実は、バレエ音楽『くるみ割り人形』を作曲中、チャイコフスキーのもとに演奏会用の作曲依頼が来た際、新作の無かった彼は作曲中だったくるみ割り人形の曲から序曲・行進曲・金平糖の踊り・ロシアの踊り・アラビアの踊り・中国の踊り・葦笛の踊り・花のワルツの8曲をバレエ組曲としており、こちらはバレエ音楽よりも先に初演されて成功をおさめている。

バレエにおいては音楽に多くが求められ、性格芸術と豊かな色彩で、華やかな総譜が作り上げられた。

序曲

中音部以上の楽器による簡潔な形式、展開部の無いソナタ形式で全体をいたずらっぽい子供の世界として、また玩具交響楽風に描く。情緒的できまぐれな子供の心情を第1主題とは対照的に表す。

第1幕

1. クリスマスツリー

市会議長シュタールバウム夫妻が召使と共にクリスマスツリーを飾り、パーティーの準備をする。木管によるアラベスクは蝋燭の光の瞬きを表現している。イ長調、アレグロヴィヴァーチェからメーノに変わり、ティンパニの強奏で子供達が客間に登場する。弦のトレモロとハープのパッセージは次の行進曲の前奏的な役割を果たす。

2. 行進曲

子供達がクリスマスツリーを巡り踊る。クラリネットと金管がファンファーレのような動機を奏で、ヴァイオリンが嬉しそうに跳ね回る子供達を表現する。

3. 子供たちのギャロップと親たちの登場

1stヴァイオリンがプレスト、ト長調、4分の2拍子のギャロップを奏でると、子供達は一層楽しげに踊る。やがてアンダンテになると、アンクワヤブル風に扮した親たちが客間に現れ、お客様も次々詰めかけ、一同はアレグロ、8分の6拍子のタランテルラ(南イタリアの民族舞曲)を踊る。

5. グロースファーターの踊り

子供達が寝る時刻が来たことを表す。人形を寝室に持っていこうとすると親たちに止められ、子供達は不満そうにする。そこで叔父ドロッセルマイヤーはくるみ割り人形を子供達に与える。これはアンダンティーノの明るい旋律によって表される。ところが子供達はたちまち人形の奪い合いを始める。モデラートアッサイで、怒ったクララの兄フリッツがクララから人形を取り上げると、床に投げつけて壊してしまう。オーボエからフルートに移る部分で奏でられる哀れな旋律は、クララが壊れた人形を抱き上げ人形用のベッドに寝かせるシーンを表す。一方のフリッツは勝ち誇ったように友達と玩具のトランペットやドラムを打ち鳴らして部屋を駆け巡る。リステッソテンポでこの騒ぎを鎮めるため、両親はお客様にグロースファーターの踊りを始めてもらう。パーティーの終曲にふさわしい古典的気品にあふれた作品である。

9. 雪のワルツ

前述したように、ねずみの大群と闘い勝利したくるみ割り人形がクララを連れて森を抜けるシーン。雪の精の王様と女王様が華麗なワルツを踊る。フルートを中心にシンコペートされたホ短調のリズムにのり軽快なタッチで様々な展開をみせ、吹雪が幻想的に描き出される。やがて雲間からかすかに漏れる月光が雪原に映え、全幕の中でも最も詩情豊かな場面となる。

第2幕

12. ディベルティスマン

(a) チョコレート(スペインの踊り)

スペイン舞踏のボレロで、導入部の後、アレグロ・ブリランテ、変ホ長調、4分の3拍子でトランペットが主旋律を歌う。

(c) お茶(中国の踊り)

ピチピチとした愛らしいコミカルな踊り。ファゴットとコントラバスの単調なリズムにのり、フルートが特徴的な旋律を奏でる。

(d) トレパック(ロシアの踊り)

ロシア農民の踊りであるトレパックが勇壮に踊られる。エネルギッシュな跳躍をみせる力強い旋律が1stヴァイオリンによって繰り返される。後半、急なテンポとなって旋風のように圧倒的迫力で曲が結ばれる。

(e) 葦笛の踊り

アーモンド菓子の女羊飼いが葦笛を吹いて踊る。ヴィオラ、チェロ、コントラバスのピッツィカート伴奏にのって3本のフルートが清新な主題を奏でる。ニ長調から中間部は嬰ヘ短調に転じ、金管が新たな主題を奏でる。

(f) ジゴーニュ小母さんと道化たちの踊り

靴に住む老婦人が大勢の子供たちと踊る。アレグロ・ジョコーソ、イ長調、4分の2拍

子でタンバリンの明るいリズムにのって主題はヴァイオリンに表れる。そして中間部のアンダンテはいかにも道化者が踊る有様を巧みに描く。

13. 花のワルツ

金平糖の精の侍女たち24名が華麗に踊る。序奏に始まり、ハープのカデンツァの導入を経てホルンが主題を奏で、ヴィオラ、チェロなどの伴奏がその間を縫って色彩を添える。そしてクラリネットが受けてフォルテになり、ようやくワルツの主部に入る。魅力的な主題がフルートに表れると中間部となる。

14. パ・ド・ドゥ

豪華なグラン・パ・ド・ドゥ形式によって演じられる。

(a) アダージョ

ハープの絶妙なカデンツァによる導入部に始まり、チェロが力強い愛情のこもった歓喜のト長調の主題をのびやかにうたう。中間部はクラリネットの抒情的な主題が哀愁を帯び、トロンボーンが再び第1主題で包む。後半は第1主題の高音部における反復から交響的に発展して劇的なクライマックスをつくり、木管と弦の長いトリルとハープが歓喜の頂点を築く。

(c) 金平糖の精の踊り

金平糖の精の独舞。4小節の弦楽のピッツィカートにのってチェレスタが主旋律を奏でる。バスクラリネットが対話風に掛け合い、夢幻的な曲想を更に魅力的にする。

15. 終幕のワルツとアポテオーズ

全員が明るく賑やかに踊る。テンポ・ディ・ワルツ、変ロ長調、4分の3拍子で主題が呈示される。やがて弦のピッツィカート伴奏で木管群が中間部を奏で、チェレスタとハープの部分を経て希望に満ちた第10曲情景の主題が現れアポテオーズ(大団円)になる。王冠を被ったクララはお菓子の国の人々から祝福されてその幸福に酔う。そしてミツバチに扮した8人の子供たちが登場し、チェレスタの神秘的な響きが色彩を添える中、周囲を飛び交う。こうして絢爛たる幻想的バレエは幕を閉じる。

【楽器編成】

ピッコロ、フルート2、オーボエ2、コーラングレ、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、タンバリン、シンバル、カスタネット、グロッケンシュピール、ラチェット、トライアングル、ハープ2、チェレスタ、弦5部

【参考文献】

音楽之友社編『作曲家別名曲解説ライブラリー　チャイコフスキー』1993、音楽之友社
伊藤恵子『作曲家・人と作品シリーズ　チャイコフスキー』2005、音楽之友社

文責：チェロ　岡本茉子

交響曲第４番 Op.36

P.I.チャイコフスキー(1840－1893)

交響曲第4番は、チャイコフスキーが1877年に作曲した交響曲である。チャイコフスキーはこの時イタリアのヴェネツィアに滞在しており、当時チャイコフスキーが宿泊したホテルには、チャイコフスキーが交響曲第4番を作曲した事実が壁に彫られている。

当時のチャイコフスキーは、パトロンであるメック夫人からの援助が始まった直後であり作曲活動は活発となった。交響曲第4番を作曲する傍ら、歌劇『エフゲニー・オネーギン』の作曲にも着手していた。しかし作曲開始直後に約2か月で破綻する結婚生活を経験し、精神的にも不安定であった。精神の安定を求めロシアを離れたチャイコフスキーが、スイスやウィーン、ヴェネツィアで書き進めたのが、この交響曲第4番である。

この交響曲第4番は1877年12月に完成し、翌1878年2月にニコライ・ルビンシテインの指揮でモスクワで初演された。

第1楽章

(Andante sostenuto～Moderato con anima)

ホルンとファゴットによるファンファーレは、作曲者曰く「運命。幸福の実現を妨げる不吉な力」を表す。その後弦楽器によるワルツのリズムの哀しげな第1主題と木管楽器のソロによる第2主題が繰り広げられる。

第2楽章

(Andantino in modo di canzona)

オーボエのソロで始まる哀しげな主部と動的な中間部で構成され、最後は冒頭の哀しげな主題が帰り幕を閉じる。

第3楽章

(Scherzo/Pizzicato ostinato～Allegro)

弦楽器のピッツィカートで始まり、中間部は木管楽器の主題と金管楽器の行進曲風の曲調が現れる。

第4楽章

(Finale/Allegro con fuoco)

祝祭的な第1主題で始まり、ロシア民謡「野に立つ白樺の樹」を用いた第2主題と交替する形で進む。その後第1楽章の冒頭の主題が回帰するが、熱狂的なフィナーレで全曲を閉じる。

【楽器編成】

ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦5部

【参考文献】

月刊都響2022年2月号 著:木幡一誠
月刊都響2022年5月号 著:寺西基之

文責：ヴァイオリン　関矢雄太

1st Violin

磯尾陽菜
伊東優
柴崎彩英佳
鈴木雅史
◎○関矢雄太
◎○髙野峻史
高野莉佳子
田村英之
津田知果
中里見徹
長島俊輔
宮本武
八木佐枝子
矢口満理奈

2nd Violin

○青山舞
生石達士
大島維納
真田茜
瀧川真鈴
奈良橋雄太
松井稔之
三浦綾乃
山岸竜
山田武蔵

Viola

奥津真
グレーヴァ遼
小久江蒼一郎
○西巻莉彩
二村乃絵花
平野晴菜
※小宅優希
※木田桃華
※中川美羽

Cello

岡野歩夢
岡野萌菜
岡本茉子
○佐藤隼斗
千野円香
塚本亜依斗
遠山晃太
中山孝輔
宮下星

Contrabass

○後藤洋介
※杉原ひとみ
※長来美
※丸地郁海

◎:コンサートマスター
○:パートリーダー
※:賛助

Flute

○竹内あか里
武田南美
丹羽龍之介

Oboe

片桐真依
松本美奈子
○吉田亜実

Clarinet

石川未夕
小久江蒼一郎
林京呉
宮本瑛司
○森俊明

Fagotto

出野めぐみ
○田熊航平

Horn

今井和
宇野晴香
中野雅久
藤澤優奈
松下久恵
○武藤寛大
村田祥悟

Trumpet

河田薫子
強崎真央
髙橋昂暉
高橋優菜
竹野優希
○山田陽大

Trombone

平井匠
本田千遥
山田光太郎

Tuba

○中村健人

Percussion

○大内優実
染谷名音
南雲大和
安田隆人

Harp

※信田苑華
※湊あゆみ

Celesta

杉本健太朗

代表	髙野峻史	**庶務課長**	山田陽大	**広報課長**	岡本茉子
副代表	関矢雄太	**庶務**	大内優実	**インスペクター**	石川未夕
副代表	髙橋昂暉	**庶務**	田熊航平	**ライブラリアン**	西巻莉彩
会計課長	奈良橋雄太	**庶務**	中村健人		

演奏会の歩み

～目白フィルハーモニー管弦楽団～

首都圏の大学生や社会人によって結成された、豊島区を活動拠点とするオーケストラ。 20代が最も多く、現在は設立当初の団員数の倍以上となる100名規模の楽団として活動している。 今では楽団の活動が、団員にとっての一つの「居場所」となっている。2024年3月に設立6周年を迎えた。

第１回	指揮：小林雄太 ピアノ：佐川和冴	上野友裕 祝典のための音楽「始」（委嘱作品） F. リスト ピアノ協奏曲第2番 B.ベートーヴェン 交響曲第7番
第２回	指揮：小林雄太 ピアノ：佐川和冴	上野友裕 うたかたの夢たち（委嘱作品） S.ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番 J.シベリウス 交響曲第2番
第３回	指揮：小林雄太	W.A.モーツァルト 『フィガロの結婚』序曲 F.メンデルスゾーン 『真夏の夜の夢』序曲 P.I.チャイコフスキー 『エフゲニー・オネーギン』よりポロネーズ P.I.チャイコフスキー 交響曲第5番
第４回	指揮：小林雄太	J.ウィリアムズ ジュラシック・パーク メインテーマ 芥川也寸志 交響管弦楽のための音楽 S.ラフマニノフ 交響曲第2番
クラースヌイ × 目白フィル 合同演奏会	指揮：山上紘生	キース・エマーソン（吉松隆 編）タルカス D.ショスタコーヴィチ 交響曲第7番《レニングラード》
第５回	指揮：小林雄太	F.リスト 交響詩『レ・プレリュード』 R.シューマン 交響曲第3番『ライン』 J.ブラームス 交響曲第2番
第６回	指揮：小林雄太	P.I.チャイコフスキー バレエ音楽『くるみ割り人形』Op.71より抜粋 交響曲第4番 Op.36

ご協賛
Support

温かいご支援に心より感謝申し上げます。(敬称略)

企業

株式会社ニチガン　代表取締役社長　塚田容子

個人

相田健夫／浅岡浩幸／伊東邦彦／上野理絵／
大原慶子／大原敏／ 北川美香／小松誠／
髙野チエ子／髙橋昭子／髙橋貴規／竹内桂一／
角田新平／奈良橋信康／ 平野文子／星野和正／
森しのぶ／吉田みつ子　(50音順)

目白フィルハーモニー管弦楽団では、演奏会にご協賛いただける個人様、企業・団体様を募集しております。本日会場内に設置いたしました専用ブースにて受け付けております。皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

SNS
Follow us on

[公式HP]
https://www.mejirophil-orch.com/

[公式X (旧Twitter)]
@MPOsince2018
https://x.com/MPOsince2018

[公式Instagram]
https://www.instagram.com/mposince2018/

[公式Facebook]
https://www.facebook.com/MPOsince2018/

次回演奏会

目白フィルハーモニー管弦楽団
第7回定期演奏会

E. エルガー
交響曲第１番 他

2025年10月12日（日）｜　午後公演
かつしかシンフォニーヒルズ　モーツァルトホール

団員募集

練習は月2回程度、雑司が谷地域文化創造館（山手線目白駅徒歩10分・ 地下鉄副都心線雑司が谷駅直結 ）を中心に都内の施設で行っております。 詳しくは当団ホームページをご覧ください。

練習の見学・ 入団をご希望の方は、ホームページのお問い合わせフォーム、SNS、又はメール(official@mejirophil-orch.com)にて、お気軽にご連絡ください。

目白フィルハーモニー管弦楽団
第6回定期演奏会パンフレット

発行者　髙野峻史
編集　　岡本茉子
発行日　2024年9月29日(日)
印刷　　東京カラー印刷株式会社